

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4.0版) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | サンアール名古屋 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 名古屋市港区泰明町一丁目一番の一部 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 商業地域、防火地域 | 平均居住人員 | XX 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 物販店,集会所, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年12月 予定 | 評価の実施日 | 2022年7月14日 |
| 敷地面積 | 28,786 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 2,522 m ² | 確認日 | 2022年7月14日 |
| 延床面積 | 4,426 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.4 ★★★★★☆

☆:S:★★★★★ A:★★★★☆ B:★★★☆☆ B-:★★☆☆☆ C:★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 30%

標準計算

| | |
|----------|------|
| ①参照値 | 100% |
| ②建築物の取組み | 83% |
| ③上記+②以外の | 83% |
| ④上記+ | 83% |

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

| | |
|-------|-----|
| 音環境 | 3.0 |
| 温熱環境 | 3.0 |
| 光・視環境 | 3.4 |
| 空気質環境 | 3.5 |

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

| | |
|-----|-----|
| 機能性 | 3.6 |
| 耐用性 | 3.6 |
| 対応性 | 3.4 |

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

| | |
|------|-----|
| 生物環境 | 1.0 |
| まちなみ | 4.0 |
| 地域性 | 4.0 |

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

| | |
|-------|-----|
| 建物外皮の | 5.0 |
| 自然エネ | 3.0 |
| 設備システ | 3.0 |
| 効率的 | 3.0 |

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

| | |
|--------|-----|
| 水資源 | 3.4 |
| 非再生材料の | 3.9 |
| 汚染物質 | 3.2 |

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

| | |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.6 |
| 地域環境 | 3.1 |
| 周辺環境 | 3.2 |

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--|--|---|
| <p>総合</p> <p>近隣住民に配慮し、敷地境界から十分な距離確保、ルーバーによる落着きのある外観計画とした。敷地外周部はメッシュフェンスと木目調のルーバーを使用し、視認性確保による防犯性の向上を図ると共に、住宅地との景観調和に配慮した。外構計画においては、必要な駐車台数を確保し、敷地出入口から駐車場への十分な車路距離を確保することで円滑な交通計画を図った。内装計画は県産木材の積極的な利用、内観パースによる検証を行い、快適な売場計画となるように配慮した。</p> | | その他 |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>外壁、屋根面で充分な断熱性能を持たせた。売り場の天井には吸音材を計画することで防音性の向上を図った。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>十分な高さの天井高を確保し、開放性のある快適な空間を演出した。ドリンクコーナーを設置し、カジュアル席やボックス席等、利用者がくつろぐことができる座席レイアウトの計画を行った。</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>落ち着いた色味の外観デザインとし、周辺の街並みに調和する色彩計画とした。建物外周部の庇へ県産木材を利用する等、地域の素材を活かした計画とした。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI、BPI_m共0.8以下の高い外皮性能を持つ計画としている。建物外壁面にルーバー、庇、を設置することで直接日射の低減を図っている。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材としてビニル床シート、合板等を利用した。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>年間最多風向(北北西)夏季最多風向(南南東)について敷地の長さに対する建物長さ、高さの比が小さいため、風下となる地域への風通しへの影響が小さい。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

サンアール名古屋

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する重み係数 | 重点項目スコア |
|-----------------|-----------------|---------------|------------|------------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.4 |
| LR1 | エネルギー | 3.4 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.6 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 3.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 1.9 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 1.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 地域性のある材料の使用※1 | 有 | 0.009 |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 3.7 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 3.9 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 3.0 | 0.01875 | |

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。